

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 27 年 3 月 12 日 (2015.3.12)

【公表番号】特表 2014-512721 (P2014-512721A)

【公表日】平成 26 年 5 月 22 日 (2014.5.22)

【年通号数】公開・登録公報 2014-027

【出願番号】特願 2013-555387 (P2013-555387)

【国際特許分類】

H 0 4 W 28/10 (2009.01)

H 0 4 W 28/06 (2009.01)

H 0 4 W 80/02 (2009.01)

H 0 4 W 8/22 (2009.01)

H 0 4 L 1/00 (2006.01)

【F I】

H 0 4 W 28/10

H 0 4 W 28/06 1 1 0

H 0 4 W 80/02

H 0 4 W 8/22

H 0 4 L 1/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 1 月 20 日 (2015.1.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

移動局と関連し且つ一時ブロックフロー ID によって識別される一時ブロックフローと各々が関連する 1 つ以上の R L C / M A C ブロックによって基地局システムとの間でデータを交換する 1 つ以上の移動局を含む無線ネットワークにおいて一時ブロックフローを解決する方法であって、

R L C / M A C ヘッダ及び R L C データブロックを含む R L C / M A C ブロックを受信するステップ (3 1) と、

前記 R L C / M A C ヘッダ中の第 1 の一時フロー ID 群から第 1 の一時フロー ID を検索するステップ (3 2) と、

前記第 1 の一時フロー ID を、割り当てられた一時フロー ID と比較するステップ (3 3) と、

送信中のダウンリンク R L C / M A C ブロックの拡張一時フロー ID フィールドを検索する前記移動局の能力を判定するステップ (3 4) と、

前記第 1 の一時フロー ID が、前記割り当てられた一時フロー ID と一致し、且つ関連移動局に対して包括的一時フロー ID を表す場合、前記 R L C / M A C ブロックのペイロードを復号するステップ (3 7) と、

前記第 1 の一時フロー ID が、前記割り当てられた一時フロー ID と一致し、且つ拡張一時フロー ID に対するコードポイントとして識別された場合、前記 R L C データブロックの少なくとも所定のフィールドを復号し且つ第 2 の一時フロー ID 群から拡張一時フロー ID を検索するステップ (3 5) と、

前記拡張一時フロー ID を、割り当てられた拡張一時フロー ID と比較するステップ (

36)と、

前記拡張一時フローIDが、前記割り当てられた拡張一時フローIDと一致する場合、前記RLCデータブロックのペイロードを復号するステップ(37)と、

前記第1の一時フローIDが、前記割り当てられた一時フローIDと一致しないか又は前記拡張一時フローIDが前記割り当てられた拡張一時フローIDと一致しない場合、前記RLC/MACブロックを無視するステップ(38)と、

新たなRLC/MACブロックを受信し且つ前記RLC/MACブロックに対して上記のステップを繰り返すステップと
を備えることを特徴とする方法。

【請求項2】

前記RLC/MACヘッダ中のPAN標識からPANフィールドの優勢度を判定するステップ(41)と、

前記PAN標識がセットされている場合、前記一時フローIDによって前記RLC/MAC PANフィールドを復号するステップ(42)と、

前記PANフィールドが正しく復号されたか否かを判定するためにCRCビットを評価するステップ(43)と、

正しい復号であると判定された場合、前記RLC/MAC PANフィールドを読み取り、前記RLC/MAC PANフィールドに含まれる情報を関連一時ブロックフローに適用する(44)が、そうでない場合は前記PANフィールドから復号された情報を無視するステップ(45)と

を更に含むことを特徴とする請求項1記載の方法。

【請求項3】

前記方法は移動ネットワークの中の移動局(120)により実行されることを特徴とする請求項1又は2記載の方法。

【請求項4】

前記方法は移動通信網の中の基地局サブシステム(110)により実行されることを特徴とする請求項1又は2記載の方法。

【請求項5】

前記関連移動局は、前記関連移動局が拡張一時フローIDを認識する能力を基地局サブシステムに報知することを特徴とする請求項3記載の方法。

【請求項6】

前記移動局は、前記移動局が受信したRLC/MACブロックを拡張一時フローIDによって一時ブロックフローと関連付ける能力を前記基地局サブシステムに報知することを特徴とする請求項4記載の方法。

【請求項7】

符号化前に前記拡張一時フローIDに追加される1つ以上のCRCビットを含めることにより、前記RLCデータブロック中の拡張一時フローIDフィールドの誤検出は防止されることを特徴とする請求項1から6のいずれか1項に記載の方法。

【請求項8】

拡張一時フローIDフィールドは、前記一時ブロックフローと関連するすべてのRLCデータブロックに含まれることを特徴とする請求項1から7のいずれか1項に記載の方法。

【請求項9】

前記拡張一時フローIDフィールドは、前記RLCデータブロック中の1つ以上の事前定義済み位置に配置されることを特徴とする請求項1から8のいずれか1項に記載の方法。

【請求項10】

前記RLCデータブロック中の拡張一時フローIDに対するエラー訂正性能は、前記RLC/MAC中の前記一時フローIDのエラー訂正性能と一致することを特徴とする請求項1から9のいずれか1項に記載の方法。

【請求項 1 1】

PANフィールドに拡張一時フローID情報が含まれることを特徴とする請求項 1 から 1 0 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 1 2】

共通ペイロードサイズを有する変調符号化方式に対する拡張一時フローIDフィールドは共通サイズで構成されることを特徴とする請求項 1 から 1 1 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 1 3】

移動通信網で使用するための移動局(120)であって、

アンテナユニット(610)と、無線通信チャネルを介して信号を送受信する送受信機ユニット(620)と、前記無線通信チャネルを介して送信すべきデータパケットを生成する処理回路(630)とを備え、前記処理回路は、RLC/MACブロックのヘッダ中の一時フローIDを復号し、前記RLC/MACブロックのヘッダ中の前記一時フローIDにより指示される拡張一時フローIDが存在するか否かを判定し、RLCデータブロック中の所定のフィールドから前記拡張一時フローIDを復号し、前記拡張一時フローIDを、割り当てられた拡張一時フローIDとマッチングし、復号された前記拡張一時フローIDが割り当てられた一時フローIDと一致する場合に前記RLC/MACブロック中のペイロードを復号するように構成されることを特徴とする移動局。

【請求項 1 4】

拡張一時フローIDフィールドを復号する能力を報知可能であることを特徴とする請求項 1 3 記載の移動局。

【請求項 1 5】

基地局サブシステム(110)であって、

アンテナユニット(510)と、無線通信チャネルを介して信号を送受信する送受信機ユニット(520)と、移動局からデータパケットを受信する処理回路(530)とを備え、前記処理回路は、RLCデータブロックの所定のフィールドで符号化されている拡張一時フローIDを前記移動局が認識可能であるという情報を前記移動局から受信するように構成されることを特徴とする基地局サブシステム。